

資料名 久遠の知・大堰の流れ

◇資料の種類：図書

◇点数：20冊（『久遠の知』12冊、『大堰の流れ』8冊）

◇配架方法：開架

◇資料解説

1 高等学校地域調査レポート集とは

亀岡市内には京都府立亀岡高校と南丹高校があり、各高校で歴史・地域・文化について学ぶことができます。高校生が各自でテーマ設定をして、口丹・亀岡地域を調査してまとめたレポート集が、『久遠の知』（亀岡高校）と『大堰の流れ』（南丹高校）です。

2 『久遠の知』について

『久遠の知』は、亀岡高校の普通科I類日本文化コース（1997～2007年）に在籍した生徒によるレポート集です。1年に1冊ずつ発行されていましたが、2007年のコース閉講にともない、レポート集全11冊と新聞掲載記事を収録した別冊1冊の計12冊で完結となりました。タイトルの『久遠の知』は亀岡高校の校歌の一節から生徒が名づけたものです。

3 『大堰の流れ』について

『大堰の流れ』は、南丹高校で2003年から開講されている総合科目「地域研究」を履修した生徒によるレポート集です。年度末に提出されたレポートをまとめたものが『大堰の流れ』で、プレゼンを課題とした年はレポート集を発行していません。2007年度には「3年間のまとめ」、2016年度には授業開講10周年として「10年間のまとめ」を刊行しています。このまとめの冊子は、既刊の『大堰の流れ』からフィールドワークや外部講師の講演録を集めたものです。

4 内容と利用方法

レポート集は、生徒が執筆したレポート、フィールドワークの配布資料、外部講師の寄稿で成立しています。年度によって受講者数は変わりますが、毎年10本以上のレポートが掲載されています。フィールドは、『大堰の流れ』は口丹・亀岡地域に限定し、『久遠の知』では亀岡地域外も対象としています。それぞれの目次リストから、興味がある項目を探して読み進めてください。

レポートは、文章に加えて写真や表を用いてわかりやすくまとめられています。各自のテーマは亀山城、城下町、明智光秀、保津川下りなど地域の歴史を中心としたもの、亀岡祭や佐伯灯籠などの祭礼について調べたもの、それぞれの高校の歴史や制服の変遷について調べたものなど多岐にわたります。やはり人気があるテーマは明智光秀や亀山城などであり、本数も多いですが、それぞれ生徒の着眼点が異なっているので読み比べてみるのも面白いです。

◇使用上の注意事項

- ・貸し出しはしていません。複写される方は、「文献複写申込書」に記入の上、受付へお持ちください。（白黒1枚10円／カラー1枚50円）。

公開うらばなし

地域の歴史を調べるレベルは、研究者による学術調査、大学の卒業研究、小中学生の自由研究、など様々です。そのなかでも、今回は高校生が地域の歴史を調べたレポート集を紹介しました。

どちらのレポート集も『亀岡市史』や展示会だけでは取り上げられない多様なテーマを扱っており、レファレンスの資料としてよく活用しています。レポートの多くで共通している点は、本だけを参考にするのではなく、実際に地域を歩いて情報を集めること、戦争体験や仕事内容について地元の人に聞き取りをしていることです。調査の過程で新しい資料を発見した事例もあります。長年にわたって作成されているため、それまでのレポートを参照しながら参考文献に取り上げてさらに深く調査が進みます。そうすることが地域調査の流れが続く循環になっているのです。

公開の窓辺で…

展示会を開催する時にまず手に取る資料が、資料の目録です。整理する資料が膨大な量であるため、資料館では専門の知識をもったアルバイトさんに目録作成をお願いしています。古文書に書いてあるくずし字を解読して、内容を読み取ることは時間がかかる地道な作業ですが、目録が出来てはじめて資料館は展示事業をすることができるのです。まさに、縁の下の力持ちです。基礎的な作業であり、一番重要な作業である…。このことをどう伝えていくのが、職員の大きな使命となっています。(鈴木亜香音)

事務連絡

前回1月7日(土)第34回資料公開「発掘調査報告書Ⅱ」の説明会参加者は5名でした。

次の第36回資料公開は、3月11日(土)午前10時より「上田正昭氏関係記事」を予定しています。

亀岡市文化資料館

〒621-0815 京都府亀岡市古世町中内坪1番地

TEL 0771-25-5067・22-0599 FAX 0771-25-6128 E-mail bunka-siryoukan@city.kameoka.kyoto.jp